

研究主題 「心理的安全性を高める授業実践」

～子どもたちや教師が一人残らず学び合う学校づくり～

上里町立上里北中学校

1 研究主題の設定理由

令和6年度に行われた埼玉県学力・学習状況調査において、「相手の気持ちを考え、優しい言葉遣いができている」と回答する児童生徒ほど、「話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりする」傾向があることがわかった。また、主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて学力を向上させることがわかっている。

上里町では、令和6年度に改訂された「上里町学力向上プラン」において、「学び合い学習」を中心としながら、「学級づくり」「基礎基本の徹底」「協働的な学び」「個別最適な学び」を主な柱としている。「学級づくり」の柱では、「特別活動と道徳教育の充実」が掲げられ、令和6年度は上里東小学校が「考え議論する道徳」の質的転換を課題とした研究に取り組んだ。

本校は、令和6年度の目指す学校像として「協働して学び、教師と生徒・生徒と生徒がつながり合い、学年・学級経営を充実した、生徒一人一人に居場所のある学校」を掲げ、学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」の具現化を図ってきた。各学級では、ペア・4人グループを中心とした授業づくりをしたり、生徒会を中心とした「きたきらスタープロジェクト」として、「挨拶」「全力校歌」「いじめ0宣言」「ボランティア活動」「真剣無言清掃」を充実させたりした。一方で、不登校の生徒が多く、発達支持的生徒指導として、学校・学級が安全・安心な居場所となるような取組を行ったり、スマホ等の適切な使い方をする等規律ある態度をさらに培ったりすることが急務である。

以上のことから、道徳科の授業を要とした道徳教育の充実を図り、さらに学校、家庭、地域が一体となった道徳教育を推進していくことで、自他を大切にする心や生命の尊さについて理解し尊重する心、人間社会を形作る規範意識が醸成され、心理的安全性が高まり、「誰一人取り残さない」教育が実現できると考えた。さらに心理的安全性が高まり、自分の意見や気持ちを安心して表現できる環境が整うことで学び合いがさらに充実し、学力向上につながると考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 教師がより道徳科の授業力を高め、発表し合う機会を提供し、失敗を恐れな
い、間違いやできないことが笑われない、お互いに関心を抱き合う授業を展開
することで、共感的な人間関係が育成されるだろう。

- (2) 生徒の成長を認め、励ます評価を行うことで、自己効力感などの非認知能力が向上し、子供の学力向上へとつながるだろう。
- (3) 保護者と思いを共にした道徳授業の実施や、道徳に関する情報発信を積極的に行うことで、家庭や地域での道徳的実践への意識が高まっていくだろう。

3 研究の経過

月	実施内容
4月 3日	校内研究推進委員会
4月 9日	研究推進にかかる全体会議（研究主題の設定、研究部会の発足）
5月 1日	上里町学力向上推進委員会
6月 3日	校内学力向上・指導力向上授業研究会 3年1組 指導者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー
6月 5日	上里町教育講演会 演題 これからの道徳教育と道徳科のさらなる質的転換 講師 十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授
6月 19日	校内道徳教育授業研究会 2年2組 指導者 埼玉県教育局北部教育事務所 指導主事
7月 9日	上里町学力向上推進委員会
7月 11日	第1回 hyper-QU 実施
7月 18日	校内教員指導力向上全体研修
7月 29日	上里町教育委員会授業改善研修
8月 1日	校内 hyper-QU 分析研修
8月 25日	全学調・県学調分析研修、道徳教育全体計画検討会
9月 9日	校内学力向上・指導力向上授業研究会 1年3組 指導者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー
10月 15日	埼玉県道徳教育研究協議会 合同研修会
10月 16日	上里町学力向上推進委員会
11月 19日	校内道徳教育授業研究会（兼5年次研修異校種授業研）3年2組 指導者 埼玉県教育局北部教育事務所 指導主事
12月 12日	第2回 hyper-QU 実施
12月 17日	校内教員指導力向上全体研修
1月 13日	校内道徳教育授業研究会 3年3組 指導者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー
1月 15日	夢と豊かな心をはぐくむ講演会 演題 夢を叶えるために大切なこと 講師 西武ライオンズベースボールアカデミーコーチ
1月 26日	校内道徳教育授業研究会 1年1組



	指導者 埼玉県教育局北部教育事務所 指導主事
1月29日	校内道徳教育推進全体研修
2月19日	校内学力向上・指導力向上授業研究会
	指導者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー

4 研究の内容

(1) 1人も取り残さず、自分から訊ける子供たちを育てる授業づくり

上里町では、第5次上里町総合振興計画（後期基本計画）を受けて、学び合い学習の充実を掲げている。「考え、議論する道徳」の充実のためにも、普段から学びの環境〈つながる場〉をつくることが重要である。本校では、道徳の授業だけでなく、すべての授業で少人数グループをつくり、聴き合う関係を築くことを目指している。

① 教材研究 本質に迫る課題（問い）づくり

道徳の授業研究においては、話し合いを深めるための中心発問を考え、中心発問を生かすための学習指導過程を構想していくが、道徳科の授業以外にも、子供たちが挑戦したくなる課題をつくり、その課題につながる基礎基本の学習を前半に組み立てる授業展開を計画している。上里町学力向上・教員指導力向上研修（全体研修3回、教員個別研修16回）を中心に、子供たちが夢中になる授業づくりを行い、主体的、対話的で深い学びの実現に向かって、道徳を含む全授業において教材研究から授業改善を図っている。

② 心理的安全、文化的価値づくり

道徳授業において話し合いを深めるためには、バカにされないこと、安心・安全に自己開示ができる環境があることが必要である。少人数グループを組むことで、子供たちの居場所がそこにでき、教室全体のときよりもわからないことは聞いてもいい、間違えても大丈夫という雰囲気ができ、安心して自分の考えを言うことができる。道徳のときだけでなく、学習内容に応じて、少人数グループを組み、道徳のときに気構えることなく話し合い活動ができるようにしている。

その中で、他者の意見を聞くことで、自分が考えていなかったところに気づいて自分の世界が広がったり、他者の意見を合わせて自分の意見をより高い次元にしたり、他者の意見を受け、やっぱり自分はこう考えると、意見を深掘りしたりする、「考え議論する道徳」の充実を目指す。



(2) 道徳教育年間指導計画の再検討

道徳教育は、年間指導計画に従って、教科書を活用しているが、その時の生徒の実態や、地域が求めるものは変化していく。そこで、重点指導項目に合わせて彩の国の道徳や文科省教材をとり入れていくが、全職員で道徳の内容項

目や学校経営方針を深く理解するために、研修の中で意見を出し合いながら年間指導計画を再検討していく。学校行事とのかかわり等を踏まえながら検討していくことで、より年間指導計画の意味を理解して取り組めるようになる。

(3) 道徳通信の発行による家庭との共有

家庭で道徳の話題が自然となされ、考える機会が増えることを目指し、道徳通信を発行していく。その日の道徳の内容（読み物教材のストーリー）、生徒の振り返り、教員の振り返りを記載し、多様な考えを通信からも広めることができる。学校からの情報発信の機会も増える。

5 研究の成果と課題

7月と12月にアンケートを実施した。

アンケート内容 ()は保護者	あてはまる、ややあてはまるの割合			
	生徒		保護者	
	7月	12月	7月	12月
自分の将来の生き方をよく考え、豊かな心が育っている。	82.1%	85.6%	69.4%	72.0%
命を大切にする心や社会のルールを守ろうとする態度を身に付けている。	91.6%	95.0%	92.5%	91.1%
自分の大切さとともに他人の大切さを認める意識を身に付けている。	92.0%	96.9%	92.5%	95.2%
自分の夢や目標に挑戦できると思う。 (子どもは自己肯定感が高まっている。)	78.7%	86.7%	75.6%	76.8%
学校でのことを、家の人と話している。 (学校は子どもの様子を保護者や地域に知らせている)	73.3%	86.2%	80.6%	73.8%

- (1) 教員指導力向上研修等を繰り返しながら、学習内容に応じて、少人数グループでの授業を展開したことで、道徳の授業中はもちろんのこと、各教科等の授業においてもわからないときに訊いたり、自分の意見を伝えていたりする姿が多く見られるようになった。今後も継続していき、共感的な人間関係がさらに深まるようにしていく。
- (2) アンケート結果から、自己肯定感の高まりが感じられる。学級活動や進路指導とも関連づけながら、挑戦する気持ちをさらに高め、自己有用感などの非認知能力の向上を目指す。
- (3) 学校の情報発信については、子供は話しているが、保護者は情報が得られていないと感じる割合が高くなった。今後も継続的に道徳通信の発行を続けるとともに、ホームページでも情報を掲載し、それをきっかけとした保護者とのやりとりが増えていくことを目指していく。